

市民公益活動を支援します！

CNSuita

市民ネットすいた Civil Network Suita

ニュース No.13

発行日 2014(平成26)年12月1日

発行所 NPO法人市民ネットすいた
(吹田市立市民公益活動センター指定管理者)

「吹田市市民公益活動の 促進に関する基本方針」の 見直しを提案

NPO 法人市民ネットすいたは 2007 年 3 月に市が策定・施行した「吹田市市民公益活動の促進に関する基本方針」について、幾つかの見直しをこの 9 月 30 日付で市長に対し提案いたしました。

この基本方針が 7 年前に施行され、少子高齢社会が深刻な問題となる現在において、実施実現されている事業、まだ手も付けられていない事業、今の事情に見合わない事業などを市民公益活動の中間支援団体として見直し、提案書にして担当課に提出しました。

① 公益活動支援地域拠点施設について

現在、南千里に吹田市民公益活動センター（ラコルタ）が市内 1 ヶ所設置されています。基本方針では市内 2 か所の支援施設を既存の施設や空きスペースを利用して整備するのが望ましいとあります。しかし、私たちは吹田の地理的利便性を考え、地域的に 3 か所（JR 吹田駅周辺、江坂、千里丘/岸部）にサテライト施設を設置し、既存のラコルタと一体の運営が望ましいと考えます。

② 市民公益活動団体に事業委託を進めるにあたっての課題

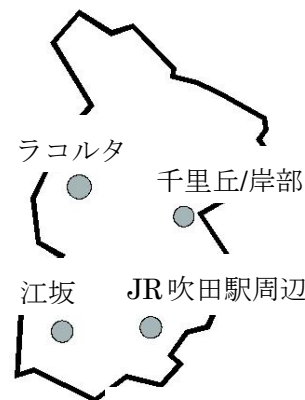
公共サービスの提供を市民公益活動団体に委ねる「事業委託」という形態を活性化させる必要があります。その為には企画段階から公募する「企画提案方式の委託事業」を実施するよう提案します。

③ 市民公益活動団体に対する助成に関すること

現在、市は年間 300 万の補助金を基金から支出し、その審査・決定については審議会委員が行っています。

しかし基本方針によると「第三者機関に委ねる」とあります。基本方針にもあるように、専門性を

① 地域拠点施設 サテライトを 3 か所に



② 「企画提案方式の 委託事業」の実施を！

③ 補助金交付事業全体を 第三者機関に委ね、「事業 委託」の活性化を

④ 市民公益活動を支える 支援基金の創設を

支援基金創設

寄付金 基金	=	合算基金 積立
-----------	---	------------

一般からの寄付窓口を、ラコルタや地域拠点施設に置き、寄付金と行政からの基金を合算して、大切に助成金に活用する。

⑤ 公共施設の利用について

市民公益活動団体が利用しやすい施設の提供を

持った機関の設置を望みます。また、ただ補助金を決定するだけでなく補助金受付や実施事業の途中支援、評価後次の事業につなげる、きめ細かい専門的な支援が必要です。そのためにも、補助金の交付事業全体を第三者機関に預け審査・決定・評価・支援等すべてを任すことも提案します。

④ 市民公益活動を支える支援基金 の創設について

基金を取り崩している現状を打破するために、また市民公益活動団体への安定的かつ継続的な助成をできるために、寄付窓口をラコルタや市民公益活動支援地域拠点施設に置き、もっと広報を身近なところで常に行えるようにすることを提案します。

日常的に市民公益活動が見える窓口で集めた寄付金と、その同額を市が支出して合算し、基金に積み立てると、目減りも少なくなり頂いた寄付を大切に使う気運も生まれると考えます。

⑤ 公共施設の利用についての課題

今、正にラコルタの会議室等の使用について減免制度廃止に市が動いているようですが、市民公益活動団体が利用しやすい施設を提供する方針の堅持を提案しています。

CNS会員と理事と一緒に考える、「NPO 法人市民ネットすいた」の「中・長期計画」検討会が立ち上がりました！



ラコルタの開設から2年が経ち、「市民ネットすいた」では、現在の事業のふりかえりと共に、今後の方向性を見据えた事業を検討していかなければならない時期を迎えています。今年度は、ラコルタの運営と共に、9月末には2007年3月に出された「吹田市市民公益活動の促進に関する基本方針」の見直しとして、市長宛に提言提案と質問を送りました。

そのような中、10月21日（火）に理事と会員がラコルタで一堂に会し、ミッション実現の道筋づくりとして、中・長期計画検討会を開催しました。多様化する地域課題の解決に向けた「地域総働」の時代を迎えるにあたり、地域社会での中間支援団体の役割を明確化することは重要です。その内容について、検討会という場で理事と会員が共に

確認できた意義は大きいといえます。

単年度ごとの事業計画は定期総会で審議・決定に基づき取り組んできましたが、「中・長期計画検討会」では、そもそもの開催目的である中・長期計画の必要性の確認から始め、その後、要となる事業に議論を移し、以下の4つのテーマで柱を立てることができました。

- ①ラコルタ第2期の指定管理者を確実のものにする。
- ②市民公益活動の「包括支援センター」の機能を整え、対象分野を地域活動にも広げていく。
- ③認定NPO法人もしくは大阪府指定法人を視野に入れ、ファンドレイジングにも力を入れる。
- ④持続可能な組織を目指すため、収益事業にも積極的に取り組む。

今後は現状分析や組織・事業の棚卸にも取り組み、CNSの組織力強化（キャパシティビルディング）の必要性を確認しながら、実現したい状況・目標の設定や、市民が自ら考え行動していく力を生かした、新たな市民協働の展開と「市民自治」の可能性を切り開いていくなど、組織としての活動をつくる次期総会までの計画案策定に向けて、月1回のペースで会議を重ねていくことが決まりました。

コラム ボランティア活動の課題と展望

「ボランティア活動をデザインする」学文社より

★社会の土台を支えるボランティア

ボランティアは、国と市場の対比で市民社会を見たとき、地域や社会全体を安全に維持するための地道な活動を行うとともに、現代社会のかかえる課題の解決や、新しい社会的なしくみの創造に向けた先駆的な取り組みにも挑戦し、政府・行政や企業の果たせない役割をも担う、土台を支える存在だと言える。

一方、地域における具体的なまちづくりの事業に関わり、地域のソーシャル・キャピタルの形成、生活環境の改善、特色ある地域の創造などによって欠かせない存在でもある。

活動形態としては、個人参画、団体の一員としての参画、施設のボランティアなどがある。

★ボランティアを育てる

ボランティア活動を活発化させるためには、まず、積極的に参画するボランティアを数多く輩出する必要があり、多様なボランティア同士をつなぎ、重層的なネットワークを形成し、支援を求める人（組織）や場とボランティアとをつなぐコーディネーターの存在が重要になってくる。

★ボランティア活動の現代的特徴

本来「困っている人を自発的に助ける」ということからスタートしたボランティア活動だが、現代では主体性・自発性・公共性・社会性、無償性・非営利性に、先駆性・創造性・開拓性といった要素が加わった。しかしまだ活動機会が広い範囲の市民に開かれていない可能性もある。又、多くの場合ボランティア活動を通して生きがいや自己実現など非金銭的な報酬を得る効果もある。

地域に生かされて

千里新田地区まちづくり協議会
書記・かわら版編集委員
吹田防犯協議会千里新田支部長
大野 和之



朝 7 時に家を出て、子ども達の登校の見守りの拠点に向かいます。朝練の子達は朝が早く、この時間から立っています。地域内では朝 7 時半から青色防犯パトロールが巡回し、危険個所には子ども見守り隊の人達が子ども達の安全確保に活動しています。千里新田地区まちづくり協議会は現在会員数が個人 103 名と 21 の団体で組織されています。

地域行事としては、8 月に夏まつりを、10 月には市民体育祭を主催しており、年明けにはもちつきフェスティバルも実施しています。

他には全市一斉の防災訓練もまち協中心に行っています。毎月第 3 土曜日には府道豊中岸部線の清掃活動も実施しています。まち協では発足当時から「かわら版」を発行して、地域の事を出来るだけ住民に知ってもらうようにしており、今は年 4 回発行、地域内全 6000 戸に、会員の皆様の協力で配布しています。昨年は CNS さんの推薦で大阪商工金福祉賞を頂き、更にまちづくり月間まちづくり功労者国土交通大臣表彰も受ける事が出来ました。

私個人は会社員の頃は家と職場を往復するだけで吹田には寝に帰るだけでした。地域活動に参加するきっかけは、地区の防犯協議会の支部長が空席なのでやってみないかと声が掛ったことであり、連合自治会長の面接を経て引き受けたのが始まりでした。それが今ではまち協、防犯協議会、福祉委員会、青少年対策委員会等の役員、公民館の運営委員、児童センター管理運営協議会役員、千里山交番連絡協議会会長等、多忙な毎日を送っています。体の丈夫な間は続けようとは思っていますが、限界は近いものと思われるので、後継者に如何に引継ぐかが課題と思う今日この頃です。

かわら版
創刊号と
最新号



大好きな吹田

国際交流関係、
吹田ホスピス市民塾、
おのくん里親世話人
看護師
半崎 智恵美



吹田に引越ししてきたのが平成元年の 3 月。10 年間の在宅主婦の中でじっくり練ってきた想いを「新天地の吹田」で発散することに。「今までの自分」から脱皮するきっかけができたのはボランティアを通して社会に出たことでした。いろんな病気を体験したことが子育て理念に影響し「自分の力で生きる人になってほしい」と見守りに徹することにし、私自身は仕事と国際交流のボランティアをスタート。この 26 年間に 150 人くらいのホームステイを受けてきました。ただただ人が好き、違いの面白さ、コミュニケーションのツールは言葉だけではない、多文化が共生すること・・・そして知らないことへの興味は次から次へ湧きボランティアの面白さに変わってきました。今、ラコルタの公益活動のサポート活動を見てあれもこれもやっている自分の経験と重なりました。ラコルタの指定管理をしているのが NPO 法人市民ネットすいた (CNS) です。そんなことから、今年から CNS と関わらせて頂くことになりました。26 年間、タンスに溜まったボランティア経験がどこかに生きたらいいなあ～と思っています。

今後は身体で走ってきたイベント中心の社会参加から、足元を見ながらすこし丁寧に社会とお付き合いができないものかと考えています。先日ラコルタで「ネオシニア」というテーマカフェに参加しました。皆さんが今まで歩いてきた人生を第 2 の人生に心のこりをするではなく「自分らしく」心づもりをしておられる方々に会い、心が明るくなりました。ボランティアをしていなかったら逢えなかった人々、体験の数々、エネルギー、工夫&アイデア・・・これからも皆様とご一緒したいと思っています。



「(仮称) コミュニティカレッジ」運営検討委員会が発足しました！

ラコルタでは、来年度から始める事業として、「(仮称) コミュニティカレッジ」の開設を計画しています。去る9月30日に「(仮称) コミュニティカレッジ運営検討委員会」を設置し、事業内容の具体的な検討を開始しました。

委員会は、市民公益活動分野に詳しい有識者、NPO関係者、自治会など地縁組織で実際に活動している方など11名の委員で構成されています。委員長には澤山利広さん(関西大学)、副委員長には尾浦英久子さん(吹田歴史文化まちづくり協会)が選任されました。

本事業では、地域社会の問題や課題に対し、「市民自身が問題に気づき、自分たちの手で解決していく」という市民自治の視点を持つ人材の育成と、課

題解決型のコミュニティづくりをめざし、人と人がつながる仕組みの1つとして機能することを目的としています。すべての世代を対象としますが、特に、仕事や子育ての節目を迎えようとしている世代の方々に、次のライフステージとして、地域やNPOなど、コミュニティ・ソーシャルな場へとつなげていくことで、市民公益活動の担い手となる人を育成していくことをねらいとしています。

委員会は、来年3月まで月1回のペースで開催し、来年4月の開校に向けて準備を進めていきます。企画の段階から、NPO法人市民ネットすいたの会員をはじめとして多くの市民のみなさんの参加をお願いします。

第7回北摂地域市民活動支援センター 交流会に参加

枚方市を含む北摂7市(摂津市を除く)の中間支援組織で構成する「北摂地域市民活動支援センター交流会」が、改装オープンした「サプリ村野」で10月27日(月)開催されました。

サプリ村野を管理運営する「NPO 法人ひらかた市民活動センター」から、同施設の説明を受けながら館内を見学しました。その後、各団体から取組事業などの報告と意見交換が熱心に行われました。

当「市民ネットすいた」からは、吹田市の「吹田市民公益活動の促進に関する基本方針」の見直しや、中長期計画の策定プロジェクト、「仮称コミュニティカレッジ」開講準備の報告と、「地縁と志縁で支え合うまちづくり」の協働開催の提案をしました。



「サプリ村野」館内で説明を受ける

場所を変えての懇親会では、地域は違いますが中間支援としての活動や情報交換がされ、有意義な一日となりました。



編集後記・今年もあと僅か。14日には衆議院解散総選挙、慌ただしい年の瀬になりそうです。・本号では「吹田市民公益活動の促進に関する基本方針」見直し提案や、「CNS中・長期計画」検討会立上げ、「仮称コミュニティカレッジ」運営検討委員会発足など、積極的な取組み特集になりました。どれも手拔きの出来ない重要案件です。少し硬い文面ですが、ぜひお読みいただいて、市民の明るく住みやすい明日のまちづくりのために皆様の参画を期待しています。

CNSuita ニュース
NPO法人 市民ネットすいた

ホームページ [市民ネットすいた](#) も検索ください

事務局 〒565-0862 吹田市津雲台1-2-1
千里ニュータウンプラザ6階

TEL 06-6875-7459
FAX 06-6875-7461
E-MAIL mail@cnsuita.com

情報のご提供、ご意見などお寄せください。